自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議等で全員唱和し、理念をもとにご利用者様の支援を行い、常に振り返りをしている。	開所当初の地域密着型サービスの意義や役割を考え、職員全員で話し合って事業所独自の理念を作りあげた。その理念を意識づけしていくために事業所内各所に掲示し、ミーティング時や職員会議の中で復唱するなど、振り返りの機会も設けている。管理者と職員は理念を共有しながら実践に繋げてサービス向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	朝晩のご挨拶、散歩での会話、町内会の出席等、地域の一員として交流している。	地域の人々とは単に挨拶を交わすのみではなく、地域住民の一員として自治会に加入し、回覧板に広報誌を載せてもらい事業所行事への参加を呼びかけている。コミュニティセンターへも出向き、地域の高齢者と共に楽しい時間を過ごしてもらえるよう、地域との繋がりを意識した支援を心がけ交流を深めている。また、事業所の避難訓練への参加協力も構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解や協力を得られるように、回覧板等で発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。町内会長様や近隣のグループホーム職員から助言等を戴いている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、運営状況の報告後にはメンバーから地域密着型サービスとしての役割を果たすための助言をいただきながらサービス向上に役立てている。会議内容については全職員にも周知を図っている。	会議は定期的に開催され事業所の状況報告と共に助言をいただいているが、事業所の取り組み内容や具体的な課題についての双方向的な意見交換に至るにはメンバー構成の不足も感じられる。今後はメンバー構成について話し合う機会を設けながら、利用者にとっても身近な会議となっていくことが期待される。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事は連絡し、相談している。また、「にいがた市元気力サポーター制度」や「救命サポーター制度」等に登録し、市との協力関係を築くように努めている。	市担当者とは不明な点があれば連絡を取り、何でも相談出来る関係性を築いている。また、認定更新時も市担当者へ利用者の暮らしぶりや具体的な課題について伝え連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会えお不定期であるが行っている。(ポスター等を貼って、全職員が意識できるように工夫している)	「利用者の人権を守ることがケアの基本である」という認識の下、内部研修で禁止の対象となる行為について全職員が学び理解を深めている。日中は玄関の施錠はしておらず、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するための工夫に取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、ご利用者様を敬い、言葉遣いや対応に努めている。	外内部研修の他、折にふれ学ぶ機会を設け、高齢者虐待防止法に関する理解の浸透や遵守に向けた取り組みに力を入れている。また管理者は職員が心身共に安定して業務に就けるよう、様子を窺いながら声をかけ、お互いに相談し易い関係づくりの工夫に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用しているご利用者様がいる。学ぶ機会があれば職員から参加してもらう。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い、同意を得て署名捺印を頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員会議、ホーム会議で意見交換している。また、10時のお茶等でご利用者様から意見要望を聞いたり、家族が面会に来られた時に聞いている。	家族面会の折には気楽に何でも話してもらえる雰囲気づくりに努め、状況報告と共に忌憚のない意見や要望を窺えるよう自然な関係性の構築に配慮している。利用者からは日頃の何気ない会話の中や、午前、午後のお茶の時間を共に過ごすことで、雑談の中から意見や要望を得られることもある。意見等は職員間で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やホーム会議、職員会議等の中で意見や提案を聞いている。また、「振り返りシート」を職員から書いてもらっている。	職員から日々の振り返りをシートに書き留めてもらい、毎月行うホーム会議や職員会議の中で意見や要望を聞く機会としている他、必要時には個人面談も行い、職員の声に耳を傾け情報をしっかり取り入れ、共に話し合いながら要望やアイディアを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の声に耳を傾けている。（朝礼時での1分間スピーチ等）		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数にあわせ、職員1人ひとりのレベルを把握して行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの会、ケアマネの会とのコミュニケーションを行い、勉強会や情報交換をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様と接する上で困っていることを話せるようコミュニケーション作りを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見を重点的に聞き、要望を探り解決に向けた支援を実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様が何を必要としているのか、その場に応じたサービス内容を考え、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様とのコミュニケーションに努め、信頼関係を築けるようにしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時等にご本人が何を必要としているのか、ご家族様と話し合うようにしている。	毎月の状況報告書の他、行事や日々の活動状況の写真を載せた広報誌なども家族へ送付し利用者の暮らしぶりを伝えている。また、面会時には和やかにゆっくり過ごしてもらえる雰囲気づくりを心がけている。利用者は家族と共に居室の模様替え、外出での買い物、外食の機会もあり、共に本人を支えていく姿勢がなされており、今後もより良い関係性を築いていくための支援に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に外出や外泊支援をご家族様にお願いしたり、馴染みの人や場所との関係が途切れない様に努めている。	入居前に家族から馴染みの人や場に関する情報を把握している。在宅時から利用してきた理美容院への継続的利用の支援や馴染みの友人、知人の面会での交流継続、近くの商店への買い物や近隣の散歩、また、顔なじみのボランティア、研修生の来所等と親しんできた関係性を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特定のご利用者様と話するだけでなく、周りのご利用者様も会話に入っていけるような対応をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても行事等にはお招きし、関係が途切れない様に相談や支援を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様本人にお聞きする姿勢を大切にしている。	利用者との日常の関りや会話の中からその人の思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合には、入居前の事前訪問時に家族や関係者から得た情報をもとに担当職員がまとめ、職員間で共有している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、それに応じたケア（会話）を実施している。	家族を中心に入居前に利用していた事業所からも生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等の把握に努めている。また日常の行動や仕草、何気ない会話の中からも汲み取るように心がけ、これまでの生活が継続できるよう支援に努めている。	家族や関係者から情報を得ているが、これまでのくらしが継続できる利用者個々の思いや意向等、馴染みの暮らしの記録の確認が出来ない状況であった。今後は家族や前事業者から得られた情報等を、全職員が共有把握できるように記録に残して、個々に合わせた暮らしの継続、向上に繋がることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一方的な介護ではなく、ご利用者様の力を引き出せるようなケアを実施しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンスは3か月に1回。また、状態の変化があればカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を立てている。	本人、家族、担当職員が話し合いながら介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリング、カンファレンスを開催し、利用者の状態に即した介護計画を作成している。	担当職員が中心となり、家族、、利用者の要望を伺いながら介護計画が作成されている。今後はモニタリングで得られた本人、家族の気付きや意見、要望の反映された介護計画の作成が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、支援経過を記録し、体調変化を把握している。また、ライフプランを立て職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	センター方式のアセスメントシートを活用し、本人・家族のニーズに対応する様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に、広報誌を回覧板で回してもらっている。近くのお店や遊歩道での散歩の支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診はご家族様が行っている。また、往診はかかりつけ医が行っている。	基本的には病院受診は家族に依頼しているが、家族が困難な場合は職員が同行支援し、情報伝達は専門用紙にて医師との情報提供がなされている。また協力医師や往診、24時間対応など恵まれた環境で受診支援がなされている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の少しの異変に気付けるよう、日々バイタル測定やその状態の観察を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の入院の様子について病院側と話をしたりする。(お見舞い時や電話を通して行っている)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	異変があればかかりつけ医に報告し、その後のケアについて話し合う機会を設ける。	重度化や終末期に向けた方針については、契約時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明し、家族の同意を得ている。病状の変化があった場合はその都度話し合い、協力医の指示の下、安心して終末期を迎えられる体制を整備している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応のマニュアルを常に職員の目に見える場所に貼り、全職員が対応できるようにしている。	緊急時マニュアルは各棟に設置され、定期的な研修や訓練を実施し急変時の対応の確認を行っている。AEDの操作手順についても職員全員が操作手順ができるよう、知識、技術の習得に努め、急変時対応に努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2～3か月に1回避難訓練を行っている。	年間防災計画に従い、消防署立ち合いの下、利用者、地域の住民の参加協力も得て夜間を想定した避難訓練を実施している。避難場所や避難経路、備蓄の確認も行いながら安全に避難できる方法を職員全体で確認し合っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ということを常に考え、声掛けをしている。（ユマニチュードケアを行っている）	事業所は接遇やプライパシー保護について、研修、勉強会を実施し、基本を踏まえたうえで、ひとり一人に合わせた対応に心がけている。さりげない言葉遣いや目線など、ユマニチュードケア実践の取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けをし、今何をしたいのか等聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の動きに合わせてその人に合った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日洋服の汚れがないかを確認し、あればすぐに着替えをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時声掛けをし、なるべくご自分で召し上がって頂く様に支援している。	利用者は職員と共に食事の準備、食器の後片付けなど、利用者の能力や意向に合わせ一緒に行っている。献立は業者が作成しているが、畑で獲れた旬の野菜を使い、季節感を盛り込んだメニューなどが、変更や追加も行いながら提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を確認し、少なければ声掛けをし、飲んで頂ける様に支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、必要に応じて舌のケアもしている。	.	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人に合わせた排泄間隔を把握し、定期的にトイレ誘導が必要なご利用者様には、声掛けを行っている。	利用者個々の排泄チエック表を活用し、時間誘導や手引き誘導など、身体機能に応じた排泄支援を行っている。オムツから布パンツにに改善された事例もあり、自立に向けた支援と機能低下予防に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく便秘薬に頼らないよう食物繊維の入った食事を提供している。 また、野菜ジュース、サンファイバー入りの飲み物を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴する際は必ず声掛けを行い、ご利用者様の意思を確認をし、入浴している。	個々の希望時間や状態に配慮した個別対応に努めている。拒否がある場合は、無理強せず、時間を変更したり、声掛けを工夫したりと、希望に沿った方法でゆっくり気持ちよく入浴できるよう心がけている。季節湯も工夫され好評を得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できないご利用者様に対しても頓服薬に頼らずに足浴や温かい飲み物を飲んで頂く支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効力について理解し、体調に合わせ量や種類を調整している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別レクをする際はご本人の得意分野を重点に行うようにしている。（将棋、編み物等）		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の「気分転換をしたい」等の意見を聞き、できる限り外出（散歩）するように支援している。	地域行事に出向いたり、季節に合わせたドライブに出かけるなど外出を楽しむ機会を設けており、利用者の気分転換が図られている。地域の方とも顔馴染みとなり、ボランテアの協力の下、季節に応じた外出支援が実践されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお小遣いをお預かりし、買い物の希望があれば職員が同行して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望に応じて、いつでも電話をしたり手紙を出したりできるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や季節に応じた飾り付けをしている。居室、共同空間の清潔、温度調整を心掛け快適に過ごして頂けるよう支援している。	玄関、リビングには季節の花が飾られ、畳コーナーには炬燵の備えもあり、風土や習慣に合わせた共用空間となっており、馴染んできた在宅生活の延長を感じられる。各居室の前には利用者ごとのギャラリーがあり、各自思い出の品物や写真が展示され、ゆったりとした空間は利用者の心安らぐ場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にいすを置き、和室に移動したり、テーブル席に移動し談笑する等、思いのままに過ごせる居場所がある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時以前に使っていた家具や思い出の品、写真を持ち込まれ、その人らしく過ごせる部屋になっている。	本人家族と相談し、普段から使い慣れている馴染みの物や家具、日用品を持参してもらい、思い思いの配置で飾られており、その人に合った配慮がされている。安心で落ち着いた居室空間づくりに努め、利用者が居心地よく過ごせるよう支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力、身体機能に合わせ安全を確保した個別の支援をしている。		